

## 「言葉が持つ力」

浦安市立堀江中学校2年 竹村 理沙

最近、ネット犯罪という言葉テレビや新聞でよく耳にします。昔は聞きなじみのない言葉でしたが、インターネットやSNSが発達してきてから、身近に感じている人も多いのではないのでしょうか。

今は誰でもSNSを使うことができます。そして私自身も使っています。見ず知らずの人と連絡をとれるだけでなく、情報を多くの人に広めることができます。しかし、使い方によっては犯罪に巻き込まれるなどの怖い一面もあります。

最近でも、度重なる誹謗中傷に傷つき、自ら命を絶ってしまう芸能人のニュースを目にします。匿名で発言できることをいいことに心無い言葉で攻撃する。不特定多数の相手から毎日のように誹謗中傷されたら誰だって辛くて嫌になると思います。匿名というのは個人情報やプライバシーを守るために使われるものであり、ネット上で人を傷つけるための隠れみいではありません。

年々被害者数が増えてきている、少女誘拐に関しての内容もありました。ネット上に家出を望む書き込みをしていた女子中学生に相談にのるよと返信して連れ出し、数日後、少女は痛ましい姿で発見されたという衝撃的な事件です。私はこのニュースを見て、とても心が苦しくなりました。それと同時に私と年齢の近い彼女はいったい何を抱えていたのだろうか、そこに至るまでできることはなかったのだろうかと色々な思いが頭の中を駆け巡りました。人は自分の考えが他人に理解されなかったり、自分や周りの人への怒り、孤独や絶望感などを感じたときに自暴自棄になって犯罪に走ってしまうのではないかと私は思います。もちろん、誰にだって苦しみや悩みはありますが、周りには必ず自分の気持ちに気づき、助けてくれる人や支えてくれる人がいます。親、兄弟、先生、地域の人など話を聞いてくれる人、聞いてくれる場所がすぐそこにあるという安心感。

そして、あなたは大切な存在なんだと思える瞬間がきっとあります。

小学生のとき、自分と性格が合わない子に対し何気なく言った言葉が、周りの子を巻き込んでしまい、結果、仲間外れのようになり相手を傷つけてしまいました。

中学生になって、今度は逆の立場になりました。自分はアドバイスと思って言ったことが、相手が気に入らなかったという、ささいなきっかけが理由で、仲の良い友達から毎日のようにメールで悪口が送られてきました。自分の態度に気をつけることになって、仲直りしても微妙な距離感を感じる時期が続き、学校に行きたくなくなるほど辛かったです。先輩や他の友人に支えられ乗り越えることができたけれど、その時、される側になって初めて、された側の辛さの大きさを知りました。

「いじめをした方はすぐに忘れてしまう。でも、された方はずっと忘れない」という言葉は本当にその通りだと思いました。あの時のことを思い返すと、ひとりになる怖さや、下を向くと出てきた涙の感覚が鮮明に残っているからです。

今、私は、自分がしてしまった過去のことを反省し、当たり前のことだけど、出来ていなかった「悪口になるような言葉を発さない」ことを日々気をつけています。

する側にも、される側にも、それぞれ理由があると思います。一人一人が違う性格、個性を持っているのだから考え方や受け取り方が様々なのは当たり前のことです。その違いを意見として捉えることが出来れば良いけどすれ違ってしまったり、ぶつかってしまうことも少なくありません。けれど、「違うから」「間違っているから」と、攻撃したり拒絶するのではなく、その時に感じた気持ちを「自分に向けて」考えてみれば、傷つけてしまうような言葉や行動はなくなるのではないかと思います。また、もしも攻撃を受けてしまったときは、決して一人で抱え込まず、周りの人に助けを求めることが大切だと思います。

私たちは、言葉ひとつで人を死に追い込むことが出来るという事実を忘れてはいけません。

ネットでも日常でも、誰もが、誹謗中傷と言った攻撃のためではなく、守るためだったり、良いものを生み出すための「言葉」を使えることがとても理想だと思います。

そして、子どもも大人も人種も関係なく、人として、一人一人が自分の言葉の重さと責任を常に考え選ぶことが非行のない、明るい社会に繋がるのではないかと思います。